

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	広域圏道路整備事業（大島線外）			事業コード	3079
所属コード	83000	課等名	道路建設課	係名	道路第一係
課長名	南幅 純一	担当者名	高橋葉子	内線番号	2729
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	快適な都市機能	コード	7
	施策	都市活動を支える交通環境の構築	コード	8
	基本事業	幹線道路の整備	コード	4
予算費目名	一般会計 8 款 2 項 4 目 社会資本整備総合交付金（001－02）			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度		開始年度	25 年度
根拠法令等	道路法、社会資本整備計画法、道路整備費の財源等の特例に関する法律、盛岡市総合計画			

(2) 事務事業の概要

交差点の改良工事（右折レーン設置）、道路拡幅工事 W=2.5m→W=6.0m

【事業計画】

- ・位置 盛岡市永井地内
- ・幅員 W=15.0m（現況 12.0m）L=75m
（市道左野 3 号線用地・補償 W=6.0m（現況 2.5m）L=120m
- ・平成 24 年度 測量設計、用地測量、用地・補償、地元説明会
- ・平成 25 年度 用地測量、用地・補償、道路改良工事
- ・平成 26 年度 補償、道路改良工事

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

本路線は主要道路や施設を連絡する幹線道路であり、交通量増加に伴い慢性的な渋滞が生じるため地元から整備要望が寄せられていた。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

国道 46 号盛岡西バイパスの接続に伴い、交通量の更なる増加は明白であり道路機能向上が急務となった。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が，何が対象か）

市道、市道利用者（車両、歩行者、沿道住民）

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 事業計画総延長	m	0	0	210	20	20
B						
C						

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

用地測量 N=1 式、道路改良工事 N=1 式、道路付属工事 N=一式

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 整備(供用)延長	m	0	0	210	20	20
B						
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

盛岡西バイパス・上米内湯沢線へのアクセス機能を高め、住民の利便性の向上、円滑な交通流の確保を図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 整備(供用)延長	☒ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持	m	0	0	210	20	20
B	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						
C	☐ 上げる ☐ 下げる ☐ 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度実績	24 年度実績	25 年度実績	26 年度計画	26 年度実績
事業費	①国	千円	0	1,572	29,027	1, 894	1,894
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	1,200	22,500	1,300	1,300
	④一般財源	千円	0	187	2,550	215	215
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	0	2,959	54,077	3,364	3,364
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	0	700	700	700	700
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	0	2,800	2,800	2,800	2,800
計	トータルコスト A+B	千円	0	5,759	5,759	6,164	6,164

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

市道大島線の拡幅改良は、円滑な交通流の確保につながるものであり、都市活動を支える交通環境の構築に結びつく。

② 市の関与の妥当性

市道は不特定多数の市民等が利用する公益施設であり、税金を使い道路整備を行うことに問題はない。

③ 対象の妥当性

対象は市道及びこれを利用する市民等であり、広げたり絞ったりすることはできない。

④ 廃止・休止の影響

慢性的な渋滞が問題視されていた路線であり、国道 46 号盛岡西バイパスの接続に伴い、更なる交通量の増加が見込まれている。したがって、事業を実施しない場合、道路を利用する市民への影響は大きい。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

本事業は、市道の拡幅により円滑な交通流の確保につながるものであり、もっと向上する余地があるかどうかということにはならない。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

道路は不特定多数の市民が利用するものであり、利用者を特定して受益負担を求めることは難しい。

(4) 効率性評価

道路の規格・構造や用地・補償費の算定は一定基準により算定されることから事業費の削減は厳しいが、計画にあつては既存施設等の利用及び経済比較等による精査によりコスト削減に努めた。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 概要 (新しい総合計画体系における位置づけ)

総合計画 体系 (新)	施策 (方針)	都市基盤施設の維持・強化	コード	26
	小施策 (推進項目)	安全・快適な道路環境の向上	コード	26-2

(1) 改革改善の方向性

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持 (従来どおりで特に改革改善をしない)
- ☐ 改革改善を行う (事業の統廃合・連携を含む)
- ☒ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

当該事業は、平成 25 年 12 月に供用開始した「盛岡西バイパス」と県道上米内線の新たに整備された交差点において周辺地区のスムーズな交通や渋滞解消をするため、国土交通省と共に関連する市道の拡幅改良整備を行う事業である。平成 27 年度への繰越工事が一部あるが、平成 26 年度に事業がほぼ完了している。